

**小腸がん（十二指腸がん・空腸がん・回腸がん）**(しょうちようがん（じゅうにしちようがん・くうちようがん・  
かいちようがん）

※内容を簡素に記載しております。詳しくは HP をご覧ください。

**小腸について**

小腸とは十二指腸・空腸・回腸のことを指します。十二指腸は胃と小腸をつなぐ消化管で、胃から送られてきた食物をさらに消化して小腸へと送ります。胃の出口（幽門）を超え、上部、下行部、下部、上行部の4部位に分かれていて、下行部は胆管や膵管と合流し、胆汁が流出する乳頭部があります。十二指腸以降の小腸の前半部分を空腸、後半部分を回腸といいます。

**小腸がん（十二指腸がん・空腸がん、回腸がん）について**

小腸悪性腫瘍の組織型は、神経内分泌腫瘍・腺がん・悪性リンパ腫・肉腫（GIST、平滑筋肉腫）が主であり、頻度としては、神経内分泌腫瘍が最も多く、次いで腺がんが多いとされています。一般に小腸腺がんは、ファーター乳頭部がんを除く十二指腸原発腺がん、空腸原発腺がん、回腸原発腺がんのいずれかと定義されます。

**症状について**

小腸腺がんは小腸の前半部分に好発し、およそ45%が十二指腸、35%が空腸、そして20%が回腸に発生するとされます。早期がんでは無症状であることが多いです。

**診断について**

十二指腸の手前の病変に関しては通常の内視鏡検査にて病気を発見できることが多いですが、十二指腸の奥より肛門側の病変に関しては発見が困難です。最近ではダブルバルーン内視鏡の登場により、十二指腸より奥の病変に対しても生検が可能なケースが増えてきていますが、確定診断のために外科的手術が必要となることも少なくありません。

**治療について**

小腸腺がんは、その希少性ゆえ、これまで第III相臨床試験による十分な科学的根拠を基に確立されている治療（標準治療）は存在しません。ステージIからIIIについては、「病巣の切除」が主たる治療になります。ステージIVや手術後の再発の場合には、全身に腫瘍が及ぶ病態と考え化学療法による全身への治療が行われます。小腸腺がんの化学療法については、過去の複数の第II相試験の報告にて大腸がんの治療の一つである「フッ化ピリミジン+オキサリプラチン療法」の治療成績が良好であることが示されており、日本でも2018年9月よりステージIVまたは再発小腸がんへのFOLFOX療法が保険適応となっています。小腸腺がんについては根治手術後は追加治療を行わずに慎重に経過観察（手術単独療法）を行うことが一般的です。

